HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	大学における技術者の在り方
Author(s)	太田原, 高昭
Citation	北海道大学大学院農学研究科技術部研究・技術報告, 10
Issue Date	2003-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/35441
Type	departmental bulletin paper
File Information	10_hajimeni.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

大学における技術者の在り方

農学研究科技術部長　　太田原高昭

一昨年の北大１２５周年を記念して農学研究科で企画したシンポジウム「宮部金吾博士を語る」は、四階大講堂が満員となり、宮部博士が身近に感じられた大変有意義な内容となった。私は司会を務めいろいろと興味深いお話を聞くことができたが、その中で辻井達一先生の「宮部植物学の社会性」の中に出て来た『北海道主要樹木図譜』の話がつよく印象に残っている。

『北海道主要樹木図譜』は宮部先生の仕事の中でも重要なもので、現在も北大図書刊行会から復刻版が出ている傑作であるが、この本を傑作たらしめている重要な要素は宮部先生および工藤助教授の解説と共に、画工の須崎忠助の優れた絵であるというのが辻井先生のお話であった。宮部教授のチェックを受けながら何遍も絵を書き直す粒々辛苦の素晴らしい仕事だったが、精根尽きた彼は本の完成の２年後に亡くなったという。

この須崎忠助が大学の技官であったのか、学外の人であったのか私は確かめていないけれども、なんとなくそこに農学部の技官の仕事の原型を見るような気がする。優れた学者の優れた業績の陰には、必ずそれを助けた優れた技術者がいたということを、私たちは忘れがちなのではないだろうか。宮部シンポジウムのように今日の農学を築いた先輩について改めて学ぶと共に、それを助けた技術者の業績や人物像をも知りたいと思う。

こんなことを考えたのも、いま大学改革の掛声の中で技官問題、技術部の在り方があまりにもなおざりにされていると思うからである。北大でも事務組織の在り方については集中的に議論され、善しあし別にして一定の方向が示されたが、技術部についてはほとんど議論がない。ここは人任せにせず技術部としてビジョンを示さなければと思うのだが、その場合単なる制度論だけでなく、こうした歴史の掘り起こしも必要なのではないか。